

景観まちづくりワークショップの第6回を開催、めざすべきまちの姿・目標や活動の場づくりを話し合いました！！

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第6回を、5月27日（日）に木村屋で開催しました。

今回は、新たにグループを「まちの姿や目標について考えるグループ」と「活動の場づくりを考えるグループ」に分け直した上で、それぞれでどうしていったらよいかを話し合いました。



ワークショップのプログラム等の説明とグループ分け

はじめに、都市整備課の中西課長からあいさつを行いました。

続いて、事務局より前回のふりかえりと今回の進め方の説明を行った上で、「まちの姿や目標について考えるグループ」と「活動の場づくりについて考えるグループ」の2つのテーマでグループ分けをすることとし、それぞれの希望で分かれてもらいました。

その結果、「まちの姿や目標について考えるグループ」が1グループ、「活動の場づくりについて考えるグループ」が2グループつくられました。

ワークショップの全体コーディネーターの下村 泰彦先生からお話を頂きました。

- これまでの到達点としては雑賀崎・田野・和歌浦地区の現状認識を行ったところです。
- 「まちの姿や目標について考えるグループ」については、将来どのようなまちにしていっていいかを深めて行ければと思います。
- 「活動の場づくりについて考えるグループ」については、2段階で考えることになると思います。活動を活性化していくためにどんな組織・場のあり方がよいか。そして、それを誰が担っていくのか、というふうに考えていけばよいのではないのでしょうか。
- いずれも簡単に答えが出るものではないので、じっくりと話し合っていければよいのではないかと思います。

ワークショップ

参加者が3つの班に分かれて、それぞれのグループ毎に話し合いました。

「まちの姿や目標について考えるグループ」：A班

池田さん、中筋さん、山野さん、松本さん、小泉さん、西口さん、藤本さん、青山さん、西山さん

雑賀崎・田野の方々が一班に集まったため、雑賀崎・田野地域について、意見交換を行いました。

●雑賀崎と田野の違いを踏まえて考えることが必要

- ・元々の文化が全く違う
- ・雑賀崎は海洋民族。旧暦に馴染み、旧正月を祝う文化がある。漁の方法は一本釣り。最近三階建ての陸屋根の建物が増えてきた。地域活動はNPOが中心になってやっている。
- ・田野は陸上民族。漁の方法はトロール*。地域活動は自治会が中心になってやっている。

※トロール網という漁網を船で曳きながら、海底等の魚を大量に捕獲する漁の手法。

●漁の文化が感じられる景観を大事にする

- ・人口、家と共に船も減ってきたが、漁村であることが地域のアイデンティティ。漁業が存続することが重要。
- ・朝の漁船の出入りの風景、エンジン音も含めて良い景観。
- ・海と港の景観がきれい。遊びにくる人も多く、海を眺めながらのビールが美味しい。
- ・魚釣り公園の入り口の販売施設を有効活用する方法を考えたい。

●生活の近くにある自然の魅力

- ・自然の岩がそのまま残っているのは景観として良い。
- ・女性は花好きで、隙間があれば花で埋める。
- ・家のそばまで緑があることで、鳥がやってくる。鳥の声も重要。

●目に見える近所付き合いのかたち

- ・近所付き合いが密で良好。地域でお年寄りを心配しているなど、良い所は多いが、外から入ってくる人に対する不安感など、閉鎖性にもつながっている。
- ・水場が外にあることが地域の特徴。外で作業をすることで、挨拶や交流につながっているのでは。
- ・かつては共同の井戸が十数個あった。景観として井戸があると気持ちが和むが、安全上の理由から閉めてしまった。

●坂と道の細さは地域の特徴

- ・坂が急で家を探すのが難しい。車が入れないので、救急時にレスキュー同伴でやってくる。
- ・地域外から見ても、坂に住むのはしんどい印象。
- ・道が細いが、敷地が広い訳でもないのに、建て替え時にセットバックするのが大変。
- ・散歩は楽しい。潮の匂いも感じられる。

●景観づくりに必要な配慮

- ・作った物の管理をしないと汚くなる。ベンチや遊歩道。
- ・廃屋が多いが、使われなくなった後のリスクを考えると、あまりに大きな建物は不要ではないか。
- ・屋根の色はルールを決めても良いのではないか。

●地域で出来るアイデア

- ・地域の特徴を考える。海と水仙、のようなわかりやすい特徴があると人を集められる。
- ・廃屋を買い取るファンドのような考え方はどうか。地域だけでお金が集まらなくても、金額として算出して、問題と一緒に発信して行くことは大切なのではないか。
- ・廃屋を高遠にするビジョンや、地域の夢も発信したらどうか。

●次回の課題

- ・スナップ写真等を見ながら、身近な風景の特徴、良さを見つける。
- ・自分たちの住んでいる地域の特徴はなかなか見つけられないので、和歌浦の人には雑賀崎・田野の良さを見つけてもらう。
- ・雑賀崎・田野の人は和歌浦の良さを見つける。

「活動の場づくりについて考えるグループ」：B班
 林さん、唐門さん、宮下さん、堀畑さん、小倉さん、前田さん、前田（朋）さん

和歌の浦地区のより良いまちづくりのために、どんなキーワードが必要で、どういう活動展開が大切かといった話を行いました。

和歌の浦の魅力とは？	・魅力を向上させるには？ ・ブランドにまで高めるには？	・具体的な活動や取り組みは？ ・既にある活動・取組みをどう連携させるか？	・活動・取組み主体（連携相手も）
<p>■100年変わらない「海岸美・眺望」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海への眺望、海岸から見る山並み、紀伊水道に沈む夕日など風光明媚な景色を堪能できる。 ・時を経ても変わらない「海岸美や眺望」が和歌の浦の代表的な魅力である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この魅力を広く知ってもらうことが必要であり、まずはこの地を訪れてもらうことが何よりも重要。 ・そのためには、「公共交通で利便性向上」「自家用車で来やすい環境整備」「レンタサイクルなど地元をゆっくり回ることができるようにする」といった交通の利便性向上が必要である。 ・その他に、「市民のモラル向上」「地元住民への意識啓発」「行政の取組み姿勢の見直し（ホスピタリティの向上など）」といった事も求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を満喫できる観光ルートの整備/PR ・遊覧船で海からの眺望を楽しむことができるようにする。 	<p>—</p>
<p>■積み重なった歴史を感じる事ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節、時間の経過で変化する風景 ・万葉の歴史 ・観光地として栄えた歴史、まちなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・既にPRツールはたくさんあるが、そのもの自体が知られていない。⇒PRツールが機能していない。 ・地域の人をはじめ、市民も和歌浦の歴史性を十分に理解していないのではないかと。⇒意識啓発が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6/3には名勝指定を受けた和歌浦を紹介する取組みを行う。（和歌の浦まちなみの会） ・場所ごとに万葉の歴史をPRする石碑を設置してはどうか。 	<p>—</p>

和歌の浦の魅力とは？	・魅力を向上させるには？ ・ブランドにまで高めるには？	・具体的な活動や取り組みは？ ・既にある活動・取り組みをどう連携させるか？	・活動・取り組み主体（連携相手も）
<p>■新鮮な「食」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港が近く、新鮮で美味しい魚介類が手に入りやすい。 ・かつては「海苔」が名物であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名物をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・和歌浦と言えば和歌浦せんべいくらいしか思い浮かばない。灰干しサンマ等知られていないが美味しいものはたくさんある。和歌浦ならではの食の名物をつくれなにか。 ○流通の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ・雑賀崎では、漁船から直接魚を買う事ができ、新聞等でも取り上げられて話題になっている。 ・漁業の産地直売できるようなシステムづくりにより、儲かる漁業ができないか。 ・地域でやる気がある人々をサポートする仕組みも必要。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今の若い人は魚をさばくことが出来ない人も多い。買った魚をその場でさばく等、地元の人が魚の料理の仕方を教えるような取り組みもあれば良い。 		—

●その他全般にわたる話題

- ・ライフスタイルが多様化している昨今、和歌浦は老後を見据えた新たな暮らしを実現するのにふさわしい場所となりえる。そういう人々を受け入れる土壌づくり、つながりを求める人を受け入れる場所づくりが必要となってくる。
- ・集落内にコミュニティスペースを設けて、グリーンツーリズムなど様々な取り組みができる場所づくりに取り組んでいる。（宮下さん）こういう取り組みを積み重ねて、小さな成功事例を少しずつ発信していくことが大切ではないか。

「活動の場づくりについて考えるグループ」：C班
松井さん、土山さん、中口さん、松本さん、中西さん、中野さん

●ルールづくりについて

- ・下の表の枠組みに沿って、和歌の浦の魅力と、それを向上させるための取り組みなどを話し合いました。

和歌の浦の魅力とは？	・魅力を向上させるには？ ・ブランドにまで高めるには？	・具体的な活動や取り組みは？ ・既にある活動・取り組みをどう連携させるか？	・活動・取り組み主体（連携相手も）
昔の姿（景観）を守りたい（〇〇通り、自然景観）	・昔の景色を残したいが、時代に合わせて変えていくところは変えていく必要がある	・景観を守るために、「クリーンアップ和歌の浦」で活動している	・活動は回覧板を使っての一般公募で人を集めている →最近和歌の浦の人の参加が増えてきている

和歌の浦の魅力とは？	・魅力を向上させるには？ ・ブランドにまで高めるには？	・具体的な活動や取り組みは？ ・既にある活動・取組をどう連携させるか？	・活動・取組み主体（連携相手も）
雑賀崎の景色	<ul style="list-style-type: none"> ・雑賀崎のいいところが知られていない ・PR不足 ・景色だけでは弱い、食もPRする必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・獲った魚を地域の旅館で料理する等、漁業と旅館の連携はできないか →安定的に供給できるかなど課題が多い →他の地域でやっているところはある 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と観光業の連携
歴史的景観、自然景観 見るところはいっぱいある	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌の浦は、他の地域と比べて歴史的優位性がある ・見るべきところはあっても、地元の人々が知らないSPOTもある ・住んでいる人の関心が薄い ・観光客は来ることは来るが、やはり交通の便は悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の重みの勉強が必要 ・関係する様々な人が集まる会議が必要 ・地元の人に勉強会をしてはどうか、教えてくれる人はいる ・こどもに地域の冊子を配布してはどうか →活動費などの資金面を検討しないといけない ・伊勢のように、観光タクシーを導入したい（施設の割引等） 	—
和歌の浦地区の特徴である海岸美や山なみといった景観	<ul style="list-style-type: none"> ・景観を守るために、山の稜線を守るなどのルールは必要だと思う 	—	—
和歌の浦のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・万葉のイメージだけで売っているが、それだけではない ・万葉のイメージとほかのイメージが混在していて、売りが曖昧 ・マリーナシティが悪いわけではないが、万葉のイメージだけを持って観光にこられた方が、マリーナシティを見てがっかりしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊野古道との関連づけはできないか ・和歌の浦には、夏目漱石、松尾芭蕉、飯尾宗祇などゆかりのある俳人はいる、そういったことを知らないといけない（石碑を建てるなど活動している） 	—

●その他の問題点について

- ・いずれの地区も少子高齢化が課題。
→市のほかの地域よりも少子高齢化の進行が激しい。若い人に来てもらう必要がある。
- ・観光客も来ていることは来ているが、減少してきている。

発表とまとめ

各グループのメンバーが、話し合った内容を発表しました。

最後に、下村先生からコメントがありました。

- 「この地域を活性化させたい」という皆さんの思いが伝わってきました。それを景観という側面からどうアプローチしていくのか。景観だけでは全て解決することは難しいですが、何ができるのかを考えていきたいと思います。
- 「まちの姿や目標」について、この地域で建物の大きさ、高さ、形、色、屋根などが一体どの程度だと合うのか、ということを考えていけたらと思います。その上で、それら全てを市の条例などに基づくルールとして規則化するのがよいのか、あるいは地域の皆さんで自主的に守っていくルールがよいのか、を選んで行くべきですが、少しフリーハンドで議論するには難しいテーマかもしれません。事務局の方で事例なども引用していただき、考える材料を提示いただいた方がよいのかもしれない。
- 「活動の場づくり」について、既にたくさん活動している団体があり、それらがゆるやかに連携していく場（プラットフォーム）が必要といった話が出ていたようですが、それをどうしていくのかは市の判断も要るところなので、このワークショップを踏まえて市で考えていただければと思います。大阪では「大阪美しい景観づくり推進会議」という組織があり、息の長い活動を続けていますので、参考にされてはどうでしょうか。

和歌山大学学生からのプレゼンテーション

一般公募で参加している和歌山大学の学生から、このワークショップを通じて感じたことをもとに、これからの景観まちづくりに向けた提案を行い、意見交換をしました。今後もこのような提案・意見交換の場を行うこととしました。

次回内容の決定

次回6/17（日）は現地視察を予定しており、①天橋立（終日）か②黒江（半日）のいずれかに決めるべく、参加者の希望を聞いたところ、②黒江（半日）を希望した方が多数おられたので、そちらで決定し、調整を行うこととしました。

黒江ではまちなみのルールを決めて地域で運用されているほか、景観サポーターなどの取り組みを通じて景観まちづくりを進めておられますので、参考にしていきたいと考えています。

次回もよろしくお願いいたします。

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

Tel : 073-435-1082 Fax : 073-435-1367 E-mail : toshiseibi@city.wakayama.lg.jp